

【萩市】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

「地域協育ネット」等が主体となり、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、災害発生時の危機管理（高潮・津波）について学ぶとともに、避難所生活を想定した宿泊体験、備蓄食の試食、応急処置等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動する（自助）ことはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力（共助）の育成を図る。

実施内容

- 1 実施日時：令和6年8月4日（日）・5日（月）
- 2 実施場所：越ヶ浜中学校
- 3 参加者：越ヶ浜小学校児童29名、越ヶ浜中学校生徒6名、保護者9名、地域住民18名
小学校教員4名、中学校教員3名、県教育委員会職員1名、市教育委員会2名
市防災危機管理課職員5名、市消防本部職員2名、下関地方気象台職員5名
自衛隊職員6名、県学校防災アドバイザー1名

4 プログラム

【1日目】8月4日（日）

12:45	13:00	13:10	14:40	17:00	18:30	19:30	21:00
受付	開会行事	【講義・演習①】 ・災害について ・津波・高潮について ・津波防災ワークショップ	【講義・演習②】 ・避難所生活について ・避難所運営 ・段ボールベッドの組立	夕食・備蓄食	【熟議】 ・地域のために自分たちができること	宿泊準備	就寝

【2日目】8月5日（月）

6:00	6:30	7:00	8:05	9:00	10:30	11:00	11:30	11:45
起床	朝食・備蓄食	宿泊場所の片付け 校内掃除	【講演】 ・災害地でのボランティア活動から伝えたいこと	【講義・演習③】 Ⅰ 応急処置・救急救命 Ⅱ 災害体験VR Ⅲ 災害派遣講義・ロープワーク等	自衛隊車両体験	振り返り	指導評	閉会行事 解散

5 活動の様子

1日目

《開会行事》

当初、越ヶ浜中学校体育館を避難場所に想定していましたが、熱中症対策のため玄関で受付を行い、コンピュータ室を避難場所に想定して集合しました。

開会行事では、越ヶ浜中学校長と学校運営協議会長、生徒代表が挨拶を述べた後、ご協力いただいた萩市防災危機管理課職員、下関地方気象台職員、自衛隊職員の紹介を行いました。



《講義・演習① 災害について》

下関地方気象台の方々が講師となり災害（地震・津波）についての講座を開催しました。

まず、なぜ地震・津波は起こるのかそのメカニズムと、自然災害に対して日頃からの備えや災害が起こった際の対応について講義をしていただきました。その後、7グループに分かれて『津波防災ワークショップ』の演習を実施しました。地震発生直後から津波到着までの間に様々な課題（事案）が発生する中、児童生徒・保護者・地域がその対応を協議しました。小学生低学年グループは萩市防災危機管理課と自衛隊のご指導の下、保護者と一緒に段ボールベッドの組立を体験しました。



《講義・演習② 避難所生活について》

萩市防災危機管理課の方々が講師となり、避難所生活についての講座を開催しました。

まず、「避難所について」と「配慮すべき共通事項」等について講義していただきました。その後、6グループに分かれて『避難所運営ゲーム』の演習を実施しました。要配慮者や部屋割りなど、順次配慮すべきものを考えながら配置を検討しました。後の発表では様々な感想があり、どのグループも避難所に対する理解を深めました。また、小学生低学年（1・2年生）は保護者と一緒に段ボールベッドの組立を体験しました。



《夕食 備蓄食の体験》

夕食は備蓄食アルファ米（わかめごはん、五目ごはん）を体験しました。児童生徒は、保存期間が5年という長期保存ができる備蓄食や備蓄水にとっても驚いていました。また、予想以上においしいと多くの児童生徒が話していました。これだけではお腹がすくため、保存食のビスコやライスクッキーも配付するなど、体験を通して避難所生活の食事について深く考えることができました。



《熟議 地域のために自分たちができること》

1日目の最後の研修は、児童生徒、保護者、地域が6グループに分かれて「避難所に持参する物」と「地域のためにできること」をテーマにした熟議を行いました。自分の考えを発表するとともに、他の考えを聞くことにより、より一層防災についての知識を深めることができました。

【避難所に持参する物】

	1位	2位	3位	4位	5位
A	家族	命	水	食料	スマホ
B	水	食料	懐中電灯	ペット	スマホ
C	水	食料	スマホ	ヘルメット	お金
D	命	ペット	スマホ	懐中電灯	家族
E	スマホ	薬	食料	タオル	ビニール袋
F	食料	衣服	スマホ	毛布	お金

【地域のためにできること】

1位	2位	3位
地域の確認	声かけ	マップ作り
あいさつ	サポート	ボランティア清掃
地域の確認	声かけ	ポスター作り
声かけ	マップ作り	サポート
情報収集	声かけ	避難所運営
地域を知る	イベント開催	あいさつ



2日目

《講演 災害地でのボランティア活動から伝えたいこと》

東日本大震災、熊本地震、能登半島沖地震において、ボランティア活動に参加した萩市防災危機管理課の田島孝行さんから「災害地でのボランティア活動から伝えたいこと」と題して講演をしていただきました。自然災害の凄まじさを見聞きした児童生徒は、備えることの重要性を再確認するとともに、ボランティア活動に参加する勇気や行動力に感動していました。



《講義・演習③ グループに分かれての体験》

萩市消防本部や自衛隊、山口県教育庁学校安全・体育課等のご協力により、応急処置・救急救命(AED)、災害体験VR、災害派遣講義の3講座を開催して、1講座30分で最後の講義・演習を行いました。児童生徒からは、心臓マッサージでは、「正確なやり方が分かった、とても力があることを知った」、VR体験では、「津波が来たらどのような状況か分かった、とても怖かったのでしっかりと備えをしたいと思った」などの感想がありました。



《振り返り、指導・講評、閉会行事》

2日間の防災キャンプを通して学んだことについて振り返りを行いました。また、山口県学校防災アドバイザー佐伯正典さんから「災害時に気をつけてほしいこと」について指導・講評がありました。その後の閉会行事では、越ヶ浜小学校長と学校運営協議会副会長、生徒代表が挨拶を述べ、全ての日程を終了しました。



【児童・生徒・参加者の感想から】

【小学生】

- 津波がどれだけ怖いか分かった。津波が来たら、できるだけ高いところに逃げたい。
- 災害が起こったら学校に泊まって好きなことができない。災害に備え準備をしたいと思います。地震が起きたときは今日学んだことを活かしたいと思います。
- 災害から身を守るための行動が分かった。自衛隊や色々な県の人がボランティアなどで協力して災害から人を助けてることがすごいと思いました。
- 防災についてもっと知りたくなりました。避難所運営ゲームでは、自分たちで考えることが多く、大変だと分かった。
- 「地域のために何ができるか」について考える熟議では、みんなで意見を出し合うことで、多くの考えが出たので、そのことをできるようにになりたいと思いました。
- VR体験では、津波の影響で物が流れ、自分にぶつかってくる映像を観て、その怖さを体験しました。津波の勢いがすごくて恐ろしいと思いました。この2日間で津波の恐ろしさが改めて分かりました。
- グループに分かれての体験では、色々なことが分かって良かったです。

【中学生】

- 2日間を通して、災害に備える大切さや避難時に何が必要でどこに逃げれば良いか分かった。
- 災害が起きた際は、最新の情報をすぐに知ることが大切だと分かった。
- 日本では地震が多いことが分かった。いつどこで地震が起こるか予想できないので、そのための備えを十分にしておきたいと思いました。
- VR体験と現実では結構な差があると思うので、実際に災害が起きてもパニックにならないよう冷静に行動をとりたいです。
- VR体験をすることで災害への怖さやイメージを持つことができたので、日頃からしっかりと家具の固定などの対策をしたい。
- 避難所では人との繋がりが大切なため、常日頃からあいさつや声かけなどを心がけていきます。

【参加者】

- 避難する際には、日頃服用している薬やお薬手帳なども必要不可欠な物だと実感しました。
- スマホ等を活用して災害時の最新情報をお互いに伝え合うことが必要だと分かりました。
- 地域の防災意識が高まるとともに、コロナ禍で停滞している地域自主防災の組織が再確認できたことが良かったです。